



まらまら

第49号

今、ひとりひとりが...

「桜梅桃李」という言葉が好き!

それぞれ可憐に咲き使命を果たしながら人々の心を和ませてくれる花・花・花。

一人ひとりが今、居る場所で自分らしく生き、自分らしく「きらきら」と輝いていける21世紀でありたい…。

いきいき未来いが2018 を開催しました!!



喜び・悲しみ・怒り・愛
4つのテーマとコンセプトに基づき披露



6月30日、あやま文化センターにて「いきいき未来いが2018」を開催しました。

今年、オープニングを盛り上げてくれたのは、あけぼの学園高校ビューティクリエイト部の皆さんです。普段の授業での取組を紹介の後、若さあふれるファッションショーを披露しました。



いきいき交流広場

今年のテーマは「さあ、改革!『自ら』^{考え方} ^{生き方}」です。講師に万協製薬株式会社 代表取締役社長の松浦信男さんをお招きし、講演会を行いました。「人を『人財』とする万協製薬の人材マネジメント」と題した講演会では、松浦社長の社員を第一に考える取組が紹介されました。社員を大切に、社員が働きやすいように、その結果、業績アップにつながるという、まさに人を「財産」と考えるマネジメントです。「わかりやすく、説得力があり納得できた」という感想も多く、「考え方・働き方・生き方」について、じっくり見つめなおす良い機会になりました。

編集・発行

伊賀市人権生活環境部人権政策課
〒518-0873 三重県伊賀市上野丸之内 500 番地
TEL(0595)22-9632 FAX(0595)22-9666

編集

伊賀市男女共同参画センター情報紙「きらきら」
編集スタッフ 岡 久美子・竹山 佐代子・的場 裕子
宮田 美智子・三山 佳代子

(平成 30 年 8 月 15 日 発行)

平成30年度の男女共同参画白書が発表されました。

今年の平昌オリンピック・パラリンピック競技大会は、女性を含む多くのアスリートの活躍のうちに幕を閉じ、次は、56年ぶりに日本で開催される2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に注目が集まっています。これを機に「オリンピック憲章」にも明記されている「スポーツにおける女性の地位向上」等の基本原則が、2020年東京大会のレガシー（遺産）として社会に浸透していくことが期待されます。

また、女性の社会参画が進み健康の課題も変化しています。男女ともに健康について正しい知識を持ち、生涯を見通したきめ細やかな支援を行うことは、人生100年時代において、充実した人生を全うするために不可欠であり、多様な個人が能力を発揮できる一億総活躍社会に向けた投資ともいえます。

○スポーツにおける女性の活躍

オリンピック出場選手に占める女子選手の参加割合（世界）は、夏季・冬季大会ともに増加傾向にあります。また、オリンピック日本選手団に占める女子選手の割合は、夏季大会では近年おおむね半数で推移し、2016年リオ大会では48.5%でした。冬季大会では、2014年ソチ大会で初めて5割を超え、2018年平昌大会では58.1%と過去最高となりました。

最近の夏季4大会においては、金メダルの獲得数を比べると女子選手が男子選手を上回ります。冬季大会では、女子選手のメダル獲得数が少ない状況が続いていましたが、2018年平昌大会では、金メダル3個を含む8個のメダルを獲得し、冬季大会では過去最多となりました。

パラリンピック出場選手に占める女子選手の参加割合（世界）は、夏季大会では増加傾向である一方、冬季大会では2割程度にとどまっています。パラリンピック日本選手団に占める女子選手の参加割合は、夏季大会では近年3~4割程度で推移しています。冬季大会では、2014

年ソチ大会で過去最高の3割となりましたが、2018年平昌大会では13.2%に低下しました。

女性アスリートの活躍が進む一方で、選手生命に大きな影響を及ぼす徴候として「女性アスリート三主徴」（摂食障害の有無によらない利用可能エネルギー不足・無月経・骨粗しょう症）が指摘されています。これらの徴候を放置した場合、披露骨折等により競技生活の継続が困難となる恐れもあります。

無月経や疲労骨折の既往は、新体操や体操、フィギュアスケート等の「審美系」の競技など、体重管理の重要性が高い競技で多く見られます。

○男女の健康支援

日本の平成28年の平均寿命は女性が87.14年、男性が80.98年と世界でも高い水準です。一方、平成28年の健康寿命（日常生活に制限のない期間）は、女性が74.79年、男性が72.14年です。平均寿命と健康寿命の差（日常生活に制限のある「不健康な期間」）は女性が12.35年、男性が8.84年と、女性は男性より長生きですが、男性の1.4倍ほど「不健康な期間」も長くなっています。

女性は性ホルモンの動きにより、思春期、成熟期、更年期、老年期と男性とは異なる心身の変化に直面します。男性の性ホルモンが加齢によって緩やかに下降するのに対し、女性では急激な減少・喪失という、大きな性ホルモンの動きが40代後半から50代に訪れます。

働く女性の増加、晩産化や少産化、平均寿命の伸長など、社会状況やライフスタイルの変化も女性の心身の健康に影響を及ぼしており、初産年齢の上昇や月経回数の増加により、子宮内膜症、乳がん、卵巣がん、子宮体がんなどが増えています。女性特有の健康問題については、厚生労働省では、毎年3月1日から8日までを「女性の健康週間」と定め、女性の健康づくりを国民運動として展開しています。



（男女共同参画係）

7・8月は

ワークライフバランス推進強化月間です！

伊賀市では、ワークライフバランス推進強化月間にあわせ、3月に「ハタラクカタ応援宣言」を行なった、45の企業・事業所・団体の宣言文を展示しています。そのほか、男性・女性の家事や育児への関わり方、働き方についてのパネルも展示しています。



お知らせ

悠々セミナー

正しい人生より 楽しい人生にしよう！！

“こんな考え方があったんだ” 小さな発見がいっぱいです♪

日時: 9月25日(火) 13:30~15:00

場所: ハイトピア伊賀 5階多目的大研修室

講師: 助産師 林 みち子 さん 対象者: どなたでもご参加ください。

マネジメント講座

スッキリ!働く女性のためのストレスマネジメント講座

自分の心を整えて、元気に働き続けましょう♪♪

日時: 9月28日(金) 19:00~21:00

場所: ハイトピア伊賀 4階ミーティングルーム

講師: 臨床心理士 伊藤 厚子 さん

対象者: テーマに関心のある伊賀市在住、在勤の女性